

農山村の地域資源を次世代に

「都市と農山村をつなぐボランティア活動」

とちぎ 夢 大地応援団

令和元年度とちぎ夢大地応援団活動の様子



▲塩谷町田所中



▲大田原市両郷



▲佐野市飛駒

令和元（2019）年度とちぎ夢大地応援団活動が、12月に塩谷町田所中地区で行われました。

また、とちぎ夢大地応援団カレッジ活動は、12月に第2回活動が、1月に第3回活動がそれぞれ行われました。（2～6頁に詳細）

はばたけ夢大地
第28号 2020/3

とちぎ夢大地応援団事務局
(公財) 栃木県農業振興公社
栃木県農政部農村振興課



カレッジ活動（12月21日大田原市両地区）に参加して

帝京大学経済学部地域経済学科 1年 吉成 葜里

とちぎ夢大地応援団カレッジ活動で、大田原市両郷の益子さん宅にていちごハウス内の管理作業を行いました。今年は例年に比べて気温が高いため、最初行う予定であったいちごの葉を刈り取る作業ではなく、親株の苗の根っこを刈り取る作業をしました。親株の根っこはとても根強く、はさみで刈り取るのにはとても力がいりました。



午前中の作業が終わった後、へとへとで疲れ切った私たちにたくさんの手料理でもてなしていただきました。参加した学生には県外から来た一人暮らしの人が多くたため、久しぶりに食べる温かい料理を嬉しそうに食べている姿が印象的でした。手料理をお腹いっぱい食べ、残りの親株を刈り取る作業が終わった後、益子さんが早く終わって嬉しいと喜んでいたので、少しでも私たちの力が助けになれて良かったです。

今年は天災に見舞われた年であり、栃木県も沢山の被害を受けました。益子さんもいちごの苗を被害のあった県南に届けているそうです。農業は場所や世代を超えて助け合いが必要な仕事だと感じました。



カレッジ活動（1月12日佐野市飛駒地区）に参加して

帝京大学経済学部地域経済学科 1年 日下部 倭香

私は今回の活動で佐野市飛駒町に行き、飛駒和紙について学びました。体験では飛駒和紙の原材料である楮という木の皮をむいて干す作業をしました。釜で楮の木を蒸すことで皮がむけるようになるのですが、初心者でも作業しやすいようにと地元の方が楮を蒸す時間をいつもの倍近くに増やして下さいました。それでも私には皮を綺麗にむくことは難しく、素早く綺麗に作業している地元の方を見て、まさに職人技だと感じました。



作業の後は飛駒和紙についてのお話や歴史も伺いました。そこでは飛駒和紙は、原材料である楮の苗を植えるところから、育てて切るまで全て飛駒の方々が行っていると知り驚きました。また、飛駒和紙は需要の減少などから歴史が途絶えてしまったこと、伝統をこのまま途絶えさせてはいけないと「飛駒和紙保存会」が作られ、今こうして飛駒和紙が復活していることも聞き、飛駒の方々が飛駒和紙に誇りを持っていることが伝わってきました。しかし、飛駒町には若い人がおらず飛駒和紙を作っている人たちの年齢も年々上がってきているため、この先伝統を継ぐことが難しくなっていくだろうとのお話も聞き、少子高齢化、若者の都市への人口流出といった、地域の現状と問題があることを目の当たりにしました。

とちぎ夢大地応援団

とちぎ夢大地応援団 [Click](#) 検索

事務局 (公財)栃木県農業振興公社
農政対策部

〒320-0047 栃木県宇都宮市一の沢2-2-13
☎ 028-648-9515 FAX 028-648-9517

栃木県農政部
農村振興課

〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
☎ 028-623-2334 FAX 028-623-2337

とちぎ夢大地応援団活動報告（令和元年12月7日実施）

塩谷町 田所中地区「イノシシ・シカ等獣害防護柵設置作業」

塩谷町田所中地区で、「とちぎ夢大地応援団」活動を行いました。農村地域の環境保全に関心のあるボランティア（=とちぎ夢大地応援団）と、地元の人たちが力を合わせて、同地区山林に獣害防護用の柵を設置しました。

活動には約50人が参加し、7班に分かれて午前9時過ぎから作業を開始しました。柵の設置予定の全長3.8kmのうち、この日は昼食を挟み、午後2時半ごろまで、約2.1kmの柵作りを行いました。

ボランティアには、カルビー株式会社、大和ハウス工業株式会社、栃木明治牛乳株式会社の3社の社員有志の他、ボランティア団体「ナルク」のメンバーなどが参加しました。土中に鉄筋を打ち込み、イノシシ、シカの侵入を防ぐメッシュ状の防護柵をくくりつけました。

栃木明治牛乳株式会社の社員は今回が3回目の柵設置で、参加した方は「普段はできない体験なので新鮮。自分の身近には獣の被害はないが、作業を通して中山間地域の人たちの苦労が分かった」と話していました。

同地区では主に稻がイノシシの被害を受けているそうで、田所中地区獣害対策委員会の会長で地元獣友会の会員でもある高橋さんは「駆除もしているが、とても追いつかない。ボランティアの人たちに手伝ってもらうことで作業が早く進み大変有り難い」と感謝の言葉をいただきました。



▲参加した皆さんで記念撮影を行いました。



↑はじめに、田所中地区獣害対策委員会長高橋さんより、ご挨拶をいただきました。

「皆さんのお力で、この里山が守られる。地区民一同大変感謝している。体に気を付けて作業を行って欲しい。また、地区で収穫した「とちぎの星」でご飯を炊いている。お昼時間も里山を堪能してほしい。」とエールをいただきました。



↑獣友会田中先生より、獣害防止柵設置のレクチャーがありました。柵の向きや、ハッカーの使い方、番線巻きの諸注意など、多岐に渡りました。



↑作業の様子になります。

全体を7班（班/6～7名程度）に分け、それぞれ地元の方が1名付き、指導を行いました。

はじめは不慣れな方もいましたが、次第に作業に慣れ、サクサクと作業が進みました。

比較的平らな箇所が多く、土壤も柔らかかったために、どんどん柵が設置されてきました。



↑昼食の様子になります。

献立は、具がいっぱい入った手作りのカレーライスと豚汁でした。また、栃木明治牛乳株式会社から牛乳の差し入れもあり、なごやかに食と会話を楽しめます。

暖かいご飯は大変美味しかったです。

とちぎ夢大地応援団 第2回 カレッジ活動報告（令和元年12月21日実施）

大田原市 両郷地区「いちごハウスの管理作業」

12月21日（土）、栃木県大田原市両郷地区にある「ガーデンハウス三匹の子ぶた」で、令和元年（2019）年度第2回「とちぎ夢大地応援団カレッジ活動」を実施しました。宇都宮市の帝京大学経済学部の学生と教職員合わせて12人が参加。同農園のいちご苗栽培用ハウスで、いちご苗の管理作業を体験しました。

カレッジ活動は、未来を担う若い世代に、農作業や農村資源の保全活動を体験してもらい、農業・農村の果たす役割について理解を深めることが目的です。県内の大学や短大、高校生などが参加して、毎年、各種の活動に取り組んでいます。

この日、作業に携わったのは、帝京大学経済学部地域経済学科の1年生たち。農山村をはじめ地域が抱える課題解決に向けて勉強しています。今回は農作業を実際に体験できる貴重な機会として参加しました。

いちご苗の管理作業は、学生たち全員が初めての経験。地元の方の指導を受けながら、いちごの苗を採り終えた親株の片付けを行いました。大きなはさみを使って手の力のいる仕事ですが、若いだけあって弱音を吐くこともなく、手際よくこなしていました。

大田原市出身の1年生の吉成栞里さんは「農作業自体がほとんど初めてで、想像以上に大変。高齢化など農業が抱える課題も勉強しているが、その苦労が実感できた」と感想を語りました。



▲参加した皆さんで記念撮影を行いました。若い力で作業もはかどりました。



↑はじめに、主催者代表として益子さんよりご挨拶をいただきました。

「若者が来てくれるのは大変嬉しい思います。みなさんも農作業を通じて、何かを感じ学んでくれたら私たちもとてもやりがいを感じます！」と思いを語りました。



↑施設を管理する益子さんから、実演を交えた作業方法を解説いただきました。

「いちごの根はこのように切り取ってね」と分かり易く説明してくださいました。

ハウス内は比較的暖かく作業はやりやすかったと思います。



↑ホコリが舞うので、マスクをしながらの作業となりました。

普段は、地元のおばあちゃん達が、足台を添えて、体を伸ばしながらの作業とのことです。農作業がはじめての生徒さん達も、次第に慣れ、どんどん作業がはかどります。



↑昼食の一コマです。

農家さんから心のこもったおもてなしを受けました。地元産のお米と野菜をふんだんに使ったおこわにピザ、豚汁、煮卵等など。とてもお腹一杯になりました。

とちぎ夢大地応援団 第3回 カレッジ活動報告(令和2年1月12日実施)

佐野市 飛駒地区「コウゾの加工作業」

1月12日(日)、佐野市飛駒地区で令和元(2019)年度第3回「とちぎ夢大地応援団カレッジ」の活動を行いました。宇都宮市の帝京大学経済学部地域経済学科の1年生と教職員合わせて9人が参加し、同地区で生産されている「飛駒和紙」原料となるコウゾの皮むきに挑戦しました。

飛駒和紙の生産は、江戸時代ごろから同地区で始まりました。いったん途絶えましたが、地元の人たちが保存会を立ち上げて復活しました。和紙は現在、佐野市内の小中学校の卒業証書などに使用されています。

同日、学生らは飛駒和紙会館で午後10時すぎから作業を開始。保存会の指導を受けながら、大きな釜で煮上がった楮（コウゾ）の木から、手際よく皮を剥ぎ取りました。1日をかけて20束ほどの皮剥きを完了しました。昼食は会館に隣接する「根古屋亭」で地粉を使ったそばなどを味わいながら、地元の人たちと交流しました。

作業を体験した日下部郁香さんは福島県出身。「私も地元産の和紙で作った卒業証書をもらった。こうした作業を通じて作られているということがよく理解できた」と話しました。



↑はじめに、飛駒むらづくり推進協議会会長横塚順一氏より、御挨拶をいただきました。

「地方の農村では、若者への期待値が大変高く、呼び込みに必死になっている。今回作業を体験することで、農山村の現状を知って欲しい」と語りました。



↑保存会の方の、指導のもと、コウゾの皮を剥ぎ取ります。はじめ、手間取っていましたが、次第に慣れ、どんどん作業が進みます。コツとしては、はじめに皮を剥ぐあたりを付けて、一気に剥ぎ取るのが良いそうです。

※写真は蒸気で雲っています。



▲参加した皆さんで記念撮影を行いました。若い力で作業もはかどりました。



↑こちらが、楮（コウゾ）と呼ばれる和紙の原料です。これを一気に蒸し上げて、冷めないうちに皮を剥ぎ取り、乾燥後、粉碎して和紙の原料とします。この飛駒和紙は他の和紙と比較し黄色味があり、大変強く、ちぎれない和紙として有名です。



↑昼食の一コマです。関係者も一緒になって、地場産のおそばに舌鼓。打ちたての蕎麦は大変美味しく、食も進みます。また、炊きたての混ぜご飯も盛りが多く、お腹一杯になりました。その後、横塚会長より地元の歴史や飛駒和紙について講話をいただきました。